

ソ連邦崩壊20年シンポジウム

11月6日(日) 10:00~17:30 (9:30 開場)

会場：明治大学リバティタワー 12F (東京・お茶の水)

呼びかけ

1991年のソ連邦の崩壊から今年で20年となります。20年といえば、人間ならば成人式を迎えます。当たり前のことですが世の中は大きく変化しました。

まず、日本の政治をみれば、1993年の細川連立政権の誕生によって、自民党長期単独政権は幕を下ろしました。その後自民党は連立を組むことで政権に復帰しましたが、2009年総選挙で民主党が圧勝して単独政権を打ち立てます。しかし、2010年参院選で民主党は過半数を失い、困難な政権運営を強いられています。

そこに襲いかかったのが「3・11」です。これは、日本の政治・経済・社会・文化のすべてに対して「ストレス・テスト」を課しているといえます。文明災とさえいわれる福島第一原発事故は、エネルギーをめぐる人類共通の課題を私たちに突きつけています。

一方、世界に目を転じれば、その激動ぶりは容易には言い尽くせません。ソ連という「敵」がいなくなり、新自由主義的グローバリズムは猛威をふるうようになりました。「9・11」はその総本山へのあまりにも過激な異議申し立てでした。それ以降、アメリカ入国の際には手の指10本すべての指紋が採られ、街中至るところに星条旗があふれています。「9・11」は世界のありようを根本的に変えてしまいました。

たまたま10年刻みのソ連邦崩壊、「9・11」、そして「3・11」。これらのハードルを経たいまの時点から20世紀社会主義を改めてとらえ返し、この激変する世界の流れを読み解くためにも、ぜひこのシンポジウムに参加されませんか。